

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回天草市総合政策審議会
開催日時	令和4年4月22日(金) 13:30~16:45
開催場所	天草市本渡浄化センター3階 第1会議室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、田中副会長、荒木委員、江良委員、小川委員、小田委員、木村委員、黒沢委員、澤田委員、西村委員、森本委員
欠席者氏名	山下委員
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 報 告 (1) 令和3年度第4回天草市総合政策審議会会議録について 4 議 題 (1) 第3次天草市総合計画の策定 について ・基本構想(素案):「ありたい姿」 について 5 その他 6 閉 会
審 議 内 容	
<p>議題(1) 第3次天草市総合計画基本構想について</p> <p>・基本構想(素案):「ありたい姿」 について</p> <p>【未来を創る人が育つまち】</p> <p>○事務局説明</p> <p>(会長) 将来像や理念という表現についても、具体的に議論する中で変わっていくことがあるかもしれませんが、進めて変わることが必要であれば途中で議論していきます。まずは、将来像として「ともにつながり幸せ実感宝の島“天草”」がありますが、そのことを考えた上で気づきや、少し違うと感じたことを適宜ご指摘頂ければと思います。</p> <p>今日は観点の部分をどんどん確認していき、重要な部分やこの部分から2030年を考え意識したらいいなどをご指摘頂ければと思います。</p> <p>(委員) 振り返りも含めてですが、前回の議事録にもあった5つの理念の構造が見えにくいように感じます。私がこだわっている3次元の絵がいつも出てきますが、「ひと」が大事なのはよく分かりますが、議論するのは最後ではないかと思っています。「経済」や「暮らし」、「環境」も、結局は「ひと」がやるというのが前の図だったと思いますが、前は意識が薄かった行政経営を追加したようです。しかし、行政経営は正直市民としては分からないことなので、この5つは並列じゃないと思います。もう一度この部分をご説明して頂くと、今からの「ひと」について何を議論していくのか、具体的に経済を回すのも暮らしをやっていくのも環境を取り出すのも、結局は「ひと」という話になるとは思いますが。他の理念との関係も含め教えて頂ければと思います。</p>	

(事務局) まず、3次元のイメージ図について意見をいただきましたが、まだ、なかなか難しいというところです。先ほどご指摘ありましたとおり、「ひと」がはじめに出ていくことで、負担がかかってしまうのではないかと。「経済」、「暮らし」、「環境」には、「ひと」が関係するとか意識を持っているのかというご意見だと思います。今回、「ひと」を出しておりますが、色々なことにチャレンジして頂く、そのためには「ひと」が必要ということと考えております。「経済」の中でも「ひと」が関係してくると思いますが、経済の中に「ひと」までを入れてしまうとわかりにくくなるということで、いわゆる人材育成の部分といたしますか、育てるということで、今回は「ひと」として出しているということです。イメージ図があればうまく伝えることができたかもしれませんが、今の説明でご理解頂ければと思います。

(委員) 委員の森本さんと一緒にラジオで話させて頂いて、市民の皆さんから見ると、地域という、まずは個人、自分がいて、そのあとに地域があって、次に天草というカテゴリーになると思います。天草全体のことについて話をしてもなかなか一市民から天草のことは考えにくいと思いますが、地域で考えると話ができるといったみたいなことをだいぶ話をさせていただきました。そのようなことから、「ひと」として表現したほうがいいのか、それとも「経済」、「暮らし」、「環境」のところでいろいろ行っていけばいいのかというところを、上手にとらえてもらうと良いと思っています。自分のことについて喋っているのか、地域のことで喋っているのか、天草全体のことで喋っているのか、そのように伝えていただくと、行政の皆さんと喋りやすくなるのかなと思っています。

(会長) 例えば最近では、ウェルビーイングや幸福度の考え方なども個人のことでありますが、実はそれは天草というある程度広さの中で、人が影響し合うからこそその地域でやっていきましょうというのが重要なポイントだと思います。理念は、こういうことであって、個人の方にも影響を及ぼし、これには身近な地域があり、全体の意識もあると思っています。そのような色々なことを考えていき、どのスケールで、何を考えていくのかを意識して頂けると良いと思います。この基本構造における観点としても、議論するときも今のように個々のこと、支えるための地域のやり方も重要など考えて頂ければ良いと思います。個人個人が頑張れば良い、行政がしてくれたほうがやりやすいなど、悩ましさもあるような側面がありますが、そういったこともスケールで考え意識していただくと思ったところでは、「ひと」のところでは、6つのありたい姿とありました。説明を聞いた中でのご指摘を頂ければと思います。

(委員) 「ひと」、「暮らし」、「環境」、「経済」、「行政経営」に順番はないという説明がありましたが、やはり、最初に「ひと」が出てくるのには少し違和感があります。内容はすごく大事なことでと思いますし、これを目指していかなくてはいけないことだとは思いますが、しかし、個人個人の内発性とか、自分でやっていくという気持ちを育てていくこともあるかもしれません。副会長からもご意見がありましたが、「ひと」は、地域の中の構成員であり、天草という一つの市の中の構成員でもあり、その天草全体の底上げと考えると、最初に「ひと」がくると、どう捉えていいかわからないなと思いました。「経済」や「暮らし」、「環境」を踏まえ

て、「ひと」があるということが自分ごととして考えられると思ったところです。最終的には、私たちはシステムの中で生きていると思うので、いきなり「ひと」と言われると今一つピンときませんでした。

(会長) どのような順番で皆さんに伝えていくのかという結果的なところはあとで良いかと思っています。確かに、今日の説明として「ひと」の部分から説明があり、個々の方にも頑張っていくますとなると、確かに気になるところでもあります。逆に何が最初に来たら一番じっくりくると思われますか。

(事務局) 元々の「ひと」を基軸との考えから、はじめに「ひと」から提案させてもらったところです。第3次総合計画では、市民皆さんが中心となってもらいたいという思いは持っていますが、決して順番にこだわっているわけではありません。

(委員) 私は、並びで考えると最初に「ひと」になるのではないかと思ったところです。「ひと」、「経済」、「環境」と結局は同時に動いていくとっていて、話す順序として何が最初になると「ひと」になると思ったのですが、「ひと」を独立して考えるということが少し難しいなと感じたところでもあります。

(会長) 「ひと」が他の項目の後に入れてしまうと確かに難しさもありますし、独立という風に見てしまうと先ほどシステムという話もありましたが、これまでの説明を聞いていると経済から入るのは少し違うような気もします。順番につきましてはまた改めてどうしたらいいのか協議を進めていきたいと思います。

(委員) 説明を聞くと、イメージが前提にあると思っています。今の「ひと」というところの意見を聞いていて、自分の認識と捉え方が違うと思うところがありました。もともと今までの意見では、「ひと」というのはシステムの中の、地域の中の一個人としての役割という捉え方であったと思いますが、ありたい姿や政策の内容から見ると、「ひと」は教育という意味で捉えられていると感じたところです。「ひと」は教育、経済プラス環境の捉え方だと、この上にある「幸せ実感 宝の島 天草」を議論する上で、教育が一番大事だというスタンスで考えることができ、順番としても最初でおかしくないのではないかと感じたところです。

(会長) この「ひと」のところは確かに育つというキーワードに入っており、教育というのは教えて育てる意味合いを含む、育つという意味合いでのテーマだと思います。そのような捉え方をしようというのも大切だと思います。この辺りはそういった、成長や学校教育など色んなものに限らずそれぞれに活躍するという事は、最低要素がここにあるということで少し気づきやすくなると思ったところです。何かそういったことでご意見はないですか。

(委員) これまでの2人の意見と少し重なるのですが、説明では、全てにおいて人材育成とつながるような話が出たので、人材育成と思いきって言ってもらった方がすぐわかりやすいのではないかと思ったところです。人材育成というと押し付けられているようなイメージがあるので、他の言葉はないかと考えていたところですが、教育だとまたちょっと色んな視点が入ってくるということでした。やはりここに「ひと」があるとすごく分かりにくいと感じますし、「ひと」を「学び」などそのような意味合いの言葉がいいのではないかと。

(会長) 教育というテーマがありつつ、それだけではなく、もう少し広げていくというか、

ポイントとなるのはそれぞれができることを挑戦することが膨らんでいく、そのような感覚で未来につなげようということだと思います。確かに人材育成というのは少し強い教育になるときに必要だと思いますし、教えて育てるといった内発的なものより、それぞれで与えて何かをやってみるといった感じで考えていくことも一つと思ったところです。そういった意味で人々が育つためには、皆さんがどんどんと挑戦できるようになっていくことが必要なことであり、寄り添って支援して頂けるなどそのような世界観があることだと思います。個々の存在をお互い影響し合って育てるなど、そのような世界観も見えてくるのかなと思います。

(副会長) 私の専門はまちづくりですが、歴史の研究者でもあります。最近では「まちづくりはひとづくり」と私は言いますが、モノづくり、人づくり、まちづくりと結構この3つで言うことが多いのです。そもそも総合計画は、昔は、右肩上がりの社会で、計画を作ったら、それを委員が最初におっしゃったシステムとして粛々とやっていくから、完全に右肩上がりになるという時代のシステムだと思っています。今は、計画を作ることも大事ですが、大事なのは計画をどのようにアップデートしていくかだと思います。当初考えてもいなかったようなことが起こり得る社会になってしまっていて、災害や新型コロナウイルス感染症などが発生しました。だから計画を作ることも大事ですが、起こった時にどのようなアクションを起こすのか、このアクションプランが大事だと思っています。今回集まっておられる皆さんは現場も持っておられて、個々の色んなことをやっておられるので、自分自身の行動指針を持っておられ、それと、総合計画と両方合わせながら議論されていると思っていますので、まずは、順番の話や構造の話もあると思いますが、どこかに響いて行って、どんどん収まっていると思うので、すごく皆さんは良いことおっしゃっているなと思っています。

(会長) 今回は、ありがたい姿のレベルで、なぜこのありがたい姿を掲げたのかなど、気になったこと議論していきましょう。我々はどちらかというと、素材を出し、出したことに対してさらに磨いていきます。あと、副会長が述べられましたが、毎年アップデートしてください。なぜかというと2022年の時に考えた2030年のことを言っているのです。1年、2年が経つと経験できることがあり、その時はアップデートしていこうってことです。天草市はアップデートし、総合計画へ反映させようということを前提としていることを一番に書いていただければなとも思います。

(委員) 私は一つの見方として、ありがたい姿は、幸せを実感するためのバックアップするものというようにみると、例えば、「ひと」をバックアップする時にそういうことになっているといいという風土であれば持続的に気持ちよい生活が送れるといった感じのメッセージを出したほうが良いと思ったところです。まずは、本当に地域づくりで色んなことを行っている方、まちづくり。次に、各コミュニティもいっぱいありますし、多様性を認める子どもたち、大人もリカレント教育。これだけのことを、十分バックアップすることができる場所、そのような認識だと外から見た人にとっては、自由があると、感じるのではないのでしょうか。結局何かというと、皆さんにそれぞれの幸せを実感してもらおうということで、「ひとはどうする」、「経済はどうする」、「暮らしはどうする」、「環境はどうする」とい

うようなことを強調したら、人それぞれこんなことを行政とともに、市民も一緒に考えているといった細分化されているものになると思います。

(会長) 今、委員からの意見がありましたとおり、そもそも幸せ実感ということを経験像として掲げており、どうやっていくことが幸せにつながっていくということにそれぞれの行動や色々なことが必要になっていくと思います。それを、今頂いたようにバックアップというようなこととして、行政が用意するだけじゃなく、みんなでするということやしていきたいというのが重要だと思います。皆さんが幸せになっていくための色々な仕組みがあり、きちんとサポートしていくとことを今後確認できればと思います。

(委員) 『ともにつながり幸せ実感宝の島天草』、これがすべての理念につながっているということですね。各委員のご意見を頂くと色々なところに目がいき、森を見て木を見るような感じがして、そうではなく、やはりともにつながり幸せ実感というところに、「ひと」、「経済」、「暮らし」、「環境」、「行政経営」のワードは別にして、確かにこの「ひと」という表現が難しい気がします。行政としての押し付けがましいということではなく、天草に住めばこういった人になれるということや、天草市として地域住民に期待する姿を表現する。今までの行政の上から目線でなく、市民と共にこう歩くような姿勢がこの表現ができればと思っています。そして、やはり計画を作るだけではなく、行動しながら非常に大事なことだと思います。私達委員がほんとに天草の市民に伝わっているか、それが生活としてどのように市民のウェルビーイング、幸せにつながっていくかを確認していく、そういった地道に評価していくことも今後ますます大事だと思っています。

(会長) もちろんこれがどのような状況なのか確認していくことが大切というお話だったと思うので、そういった前提で方向性を確認するだけじゃなく試行錯誤しながら、状況を見てまた改善していくっていう形でどんどん進めていくということだと思います。話を戻しますが、「ひと」の中にはありたい姿が6つありますが、この6つでいいのか、6つの内容も含めこのあたりは意識したほうがいいのか、ぜひご意見いただきたいと思っています。

(副会長) 行政の皆さんの縦割りは悪いというのは全然思っていないで、私自身も縦割りの中でやってきたので、このように筋を通すのはすごく大事だと思っています。今回の6個のありたい姿は、どう考えて6個なのかということが大切で、「この部署がこうだから6個」ではダメだと思っています。今発言されている方も、子育てしながら働いている方や、福祉を仕事にされている方、そうやって重ねていくことが大事だと思います。上から、決めて6個というのであれば納得できるのですが、この部署、この部署で合わせて6個だと説得力には欠けると思っていて、なぜ6個なのかを教えてくださいたいと思います。感覚的には私は何でも3つくらいで考えるのが一番だと思っています、5個も正直しんどいと思っています。

(事務局) 今やるべきことを洗い出し、ありたい姿と政策にまとめましたものが今回の資料となります。決して縦割りじゃなく、色々な部署のまとまったものとなっています。6個の分類と言いますか、6つのことに取り組んでいくというものになります。逆に大きくしすぎてしまうと何を言っているのか分からないという意見もあり、今は6つ提示しております。まとめて5つや3つがいいのでは

ないかなどご意見を頂ければと思います。

(副会長) ほかの「経済」や「暮らし」、「環境」は、ある程度フィールドというか、その領域で分けることができると思うのですが。「ひと」は難しいですね。「ひと」のところは、どちらかというと、どのようにその方が関わりたいかという、行動指針みたいなことで分けた方がいいのではないかと考えていて、「経済」や「暮らし」、「環境」のフィールドで分けるのと違って、この「ひと」の分野は、人がどのように関わりを持ち、他のフィールドに対してどのように取り組むのかとか、だからこそ多様性を認め合うことが必要や、子どものときはこうというような能動性という部分を表に出たほうがいいと思っています。

(委員) 6番目の、歴史と文化のところは、「ひと」のところではどうかと思ったのですが、具体的には、資料2にある文化施設をきれいにしていくとか、書かれていて、人の教育などからは少し離れている内容かなと思ったところです。あとから出てくる経済の多様な地域資源を活かしたというような世界遺産の保全などと同じ、こちら側に入ってもいいのかと思いました。

(会長) 教育というくくりだと文化財は客観的に見えてしまい、スタンスと違いますということが少しあるかもしれません。あくまでも何しているかっていうと。みんながつくるひとが育つまちにはこういうことが大事で、それになるにはどうしたらいいのってというのが次のありたい姿ではないかということだという意見だと思います。未来を創る人が育つまちになるには、まずは、歴史と文化も大切であって、ほんとうにつながるのですかという意見だと思います。そしてもう少し誇りを持っていくためには「こういう行動していきます」など複数案出てきても構わないと思います。あと、どうしたらいいのかという問いに対して、「こういう姿であればできます」ということをもっと、どんどん出し、そういうことだとワクワクして、そういうことになっていくという表現を我々が作っていくってことだと思います。どうしても、条件反射的に、文化財はここでという感じではなく、これはこういう意味があり、関わってこうというふうに示していただければと思います。未来をつくるために皆さんが思っている地域のことを振り返る。それに対して対応はそういった教育が欲しいや、思いをここに入れてほしいという意見をいただければと思います。ここは全体的に見ていただきたいと思っています。

(委員) 3つ目の子どもたちの教育環境というところになりますが、学校教育の充実と記載されています。子どもたちの教育環境を広い意味で捉えていただき、子どもたちが、学ぶ環境ということで表現して頂いてはどうかと思います。子どもたちが学ぶ環境だと学校教育の充実を含みますので。これは、市長の話でもありましたが、全国から子どもたちが、天草に集まって、天草の自然で自然体験学習を中心として学ぶ。子どもたちが生活環境や伝統文化、素材の力を学ぶ。そういったものも求められています。これは市としても実現していきたいと熱い思いを持っておられますので、市長のそういった政策を応援する意味でも教育環境という表現ではなく、学ぶ環境と表現し、学校と地域が学びの場ということで表現できるのではないかと考えたところです。

(会長) 学校というところに限定するのは一つあるとは思いますが、地域で色々育んでも

らうことも必要になってきています。教育と学ぶは同じようですけども、違っているの、学ぶ環境作っていく中で教えることもあるということ、実は学校の世界だけではないということだと思います。教育というと、特定のものになっていく。ですから学ぶ環境、こういった意味で、作っていきたくて、こういった状況になったらいいって、もう一段踏み込んだほうがいいという意見だと思います。もう少し2030年のこういう姿に天草はなるといいなってことを踏み込んで頂きたいなと思います。

(委員) 今、天草の中でも進学や通学の課題、学校でも地域の方など色々な方との関連があるので、地域とともにある学校、学ぶ環境で多様な学びが天草市ではできると表現されてもいいのではないかと思います。

(会長) 現在は学校教育の充実となっていますので、今の意見は次回の政策としての議論も変わっていくだろうと思います。

(委員) 現時点で自分もですが、こうなりたいと考えるときに、包括的な情報、こまやかな情報が必要と思っています。例えば先ほど事務局がおっしゃったイレギュラーが大きい時代なので、5年後にはこのような売上になると予測するために新型コロナの影響、為替の関係や需要など世界や日本各地の情報を集めています。天草市というとすごく大きい中で、一個人が暮らしていて、地域と言われてもあまり何をやっているのか正直分かりません。このあいだ業界の全国会議がありましたが、結局はこの業界で何かをやっているというということになり、基本的な一番の軸が食育となり、少しでもお出汁を取って頂いて、そのことを通し伝える方法論を考えていくということで色々取り組んでいます。それでも東京や熊本、鹿児島など色々な地区で、一個人がその地域で集まっても結局意見のばらつきがあって、結局何がいいといったときには、一個人の一会社が、発信することに対して応援するような体勢をとろうということになりました。地域の団体で動くというのはすごく世間体もいいですし、良いことやっているから見られやすいのですが、しかし意見が相違しながらだと、うまく進まないこともあるので、だったら一個人がいいことしているのを、その全国の団体で応援しましょうとなりました。地域のネットワークや、一人ひとりの課題など色々ありますが結局どういう方向に動いていくかそれぞれの目標や目的が違うので、漠然とした中で、地域のネットワークや天草市のためと常日頃思っている方はあまりいないと思いますが、一人ひとりがネットワークでつながることは、結果、天草市に良いと思います。しかし、全国的に色々情報があり、良い例悪い例など多くありますが、言っていることは分かるのですがどう動こうというのが正直難しいと思います。経済であつたり環境であつたり暮らしであつたり、包括的にオーバーラップしていくので、その結局がつながりだとは思いますが、一個人としては何を、一地域としては何をというのがやっぱり少し分かりにくいので、今後はこのように時代の流れ、こういう人口減少していく、こうなるので、この部分にある程度重きを置きましょうという可視化できるような情報があれば、分かりやすいのかなと思いました。

(会長) こういうスケールで考えるということは、どう考えていけばいいのかも含め、我々の議論の中への指摘だったかもしれません。

(委員) 「ひと」の中で、自立した市民活動と活発という部分がありますが、自立した市民活動というのが気になっていて、政策の計画の中では市民ひとりひとりが役割をもって、活躍推進というところに生活がありますが、自立した市民活動にありたい姿をもってらっしゃるということはそれぞれがやはり自立をするということが皆さんが一番思われる自立した生活であって、しかしここに行くまでに一人ひとりが役割を持って活躍するということと、少し違うような気がしています。この資料を読むと、おそらく市民活動を進めていき評価したいのかなと、そこに支え合いということをおそらく狙っていらっしゃることはありたい姿としてわかりますが、自立したというところを求められるというところが気になっています。

(会長) さりげなく書いてありますけど、ちょっと重たい言葉ではあります。丁寧な考え方をすると少し乱暴にも感じられます。自立したという言葉が入っていることは何か、根拠というか何か狙いがありますか。

(事務局) 1番と2番にそれぞれ市民活動的な言葉を入れていますが、1番はエリア、地域づくりやまちづくりという分野でまとめたものを考えており、2番ではNPOなどの分野として分けをしています。NPOをはじめとした市民活動団体がこれから先、一つの協働の主体としてとても大切な存在になっていきますので、個々の団体が自立して活動できるような方々と行政としても協働しながらやっていきたいという思いはあります。

(委員) 大事なところだと思いますが、なりたい姿としてここはとてもちよつと気になっていて、一人ひとりが役割を持って活動するのと市民活動が自立したというところが少し分からないところです。

(事務局) この表現はまた検討させていただきます。

【つながり稼げるまち】

○事務局説明

(会長) それではありたい姿を中心にご意見をいただければと思います。

(委員) 今回示された計画内容と前の計画は、何か同じような取り組みとなっていないのかお尋ねしたいところです。今までの取り組みとこれから稼げるというのをあえて言われているものに、どういふ変化があるのかなというのが気になったところです。

(事務局) 文言としてはあまり変わった形にはなっておりませんが、農林水というところで基本的には一次産業の担い手の確保というところはベースで変わりなく政策として打っていければと思っております。農業では有機農業による持続可能な農業の推進という今後、新たに取り組むとしては入ってくるような形を考えております。また、スマート農業という言葉がありますが、天草に合った形のスマート農業の推進を図っていければなと考えております。水産業につきましても、天草型のスマート漁業や未利用資源ということで、一つの例で上げますと磯焼けで海藻がなくなっているという状況もありますが、そういう中でウニは海藻がなくなり大分痩せているということでそういった未利用資源の活用によってウニの商品化など新たな取り組みを考えているところです。林業につ

いては雇用の環境としてはかなり厳しいような状況もございますので森林の整備も含め重点を置いて進めていければなと考えております。商工業の振興ということでは、ありがたい姿の2番目になる、「誰もが安心して働く場所があること」。これにつきましては、企業誘致関係ではテレワークやワーケーション、サテライトオフィスの整備、そういった部分について推進を図っていければなと思っております。その上で、例えば天草工業高校の方にCGコースを設けたりなどの目標に掲げ将来の雇用の場を確保していくそういったところは新しく取り組んでいけると思っております。あと、「域内経済の好循環」につきましては、地産地消ということで、今年3月から子育てクーポンの関係で電子クーポン電子商品券に新たに取り組んでおりますが、こちらも生かしながら地域経済の好循環を生むような手段を考えていければなと思っております。

(委員) 今の説明を伺うと、担い手や後継者といった持続可能なというところにテーマの方が強いと感じたので、理念との関係が疑問だと思ったところです。これまで取り組んだ内容で稼げるまちになっているのであれば続けた方がいいと思います。

(会長) これは私の意見になりますけど、つながり稼げるまちをどう考えると、後半の意見が結構重要でそれに関してどう答えるかというのは確かにこういう説明の仕方もあるれば、今の担い手があって持続可能な産品が作られるようになっていて、あとテクノロジーも使うことでこれまでの延長線上だということ形で産業と雇用と循環と観光みたいなやり方になってしまいます。そうではなく、この経済では、つながり稼げるまちということに関して、なんか切り口を変えてみた方が、見えやすくなると思います。正直、今までの常識がありがたい姿の枠組みをつくった感じがしていて、ここは変えていただいてもいいかもしれません。挑戦するという部分が見えにくくなってしまっているのです。しかし、説明を聞くといや、スマート農業や、有機に取り組んでいく、そういった看板のアイデアから出させていただいて、それとそれが影響し合って今までの産業をもちろん活性化していくということで説明になっていく方がいいと思います。つながりがあり稼げるまちなので、こういう要素でありたい姿をもっととんがっていただいて、それを支えるために既存のものを、こういう形で味付けを変えますと、いうことを出したぐらいが、この稼げるにはなりにくいと思います。なので、あえて少しとんがっていただいた方がつながり稼げるという意味ではと思います。

(委員) つながるという意味でいうと、ワーケーションという名前が出ましたが、今まで稼げなかった新しいスタイルとして、別のところの仕事と出てくるというのは非常に重要だと思っております。それがチャンスだとすると、やはりスタートアップの支援というところは切り口としてあってもいいのと思います。基本的に持続化をする今までの部分を効率化するというところでIoTが入ってきたりするのはどうしても必要なことではありますけれども、全く違う切り口であろうが、もう少しリノベーションまでいくと、オープンイノベーションという中の少し具体化が欲しいというのが1点。あと、論点は6月に発表される5カ年プランだと思います。これは22年から27年までの施策で、やはり新しい芽をつくるということができると、その同じベクトルで天草での経済だったらどういうスタートアップの勝負ができるのかということで、例えば、もう船は要らない、山が余って

いる、畑を使わないなどそういった素材があって、自分だってこんなことをやりたいという人は実はたくさんいて、天草には素材があるのですがその情報が行きわたってない、つながっていないと思っています。ここでやってみようかという素材があることを本当に感じています。都会ではこんな事業は何もできないチャンスが本当にいっぱいあって驚くと思っています。アマビスで相談を受けていますが、3カ月、半年ではそんなに進捗はありませんが、これは2年ものになるという相談を多くいただいています。経済というところの理念で独立、しかも、稼げるというのは今までより稼げるという意味であれば、やはりそのスタートアップの支援や新しい素材の提供などといったところを具体的に強調されるとより伝わると思います。

(会長) 確かにこの観点がとても重要です。また、稼げるという点に関して、スタートアップ的なゼロかイチかありますし、見方によってはある部分で、全体がその影響かもしれないという今までのビジネスを引き継ぎつつも変えていくみたいなこともひっくるめた意味での挑戦することをどんどん促していこうというのがあると思います。それをやるのは、どうしてもそういう個人が挑戦すると思いがちですが、つながりというのが重要なことで、市がこう支援もし、情報もつながってくる。天草はそういうことをやりやすいところだと思います。そういったプラットフォームや支援をしてくれるようなことが充実するからこそ、お金だけではなく、つながりがたくさんあり、やりやすくするためにはどうするかということ調整し、短期集中や営業強化など、いろいろな幅広い意味で力を入れた取り組みが重要なことと感じています。

(副会長) 専門外ですが、「ひと」のところで大いぶこだわったのは、言葉のイノベーションの話で、普通は総合計画といえば行政の皆さんの計画で、市民の行動指針を示すわけではないものです。しかし、そういう中で協働のものをどれだけ本気でやられるのかというのを気になったら、しつこく聞いて市民が読むような総合計画が本当に理想だと思うのでそれはすごく攻めているなと思っています。公民連携というのは、どの辺に書き込まれるのかと思って気になっていましたが、経済の中でこれならアウトカムやアウトプットの話になってくるわけです。その時に、僕が専門としているまちづくりでは一度作った仕組みを壊すことはなかなか難しいところがあり、しかし支援には限界があるのでそうでなければいけないと思っています。2030年にどのような働き方が残っていて、どのような組織は残っていて、どのような組織は解体されたりなど、チェンジしたりというようなビジョン、そのようなことは書き込まなくていいのかなと思いました。先ほどの具体的な話のように、経常であるとか、2030年に合わない仕組みは、つぶしていく必要があると思っています。なるべく痛みを伴わないよというの難しいと思いますが、きちんとときどき計画があって、絡み合っただけ動かなくなってしまう社会システムを上手にほどいて再生させるというそのようなことを書き込んでいかないと、行政の皆さんと一緒にやる、商工会議所と一緒にやるなど自分たちのビジョンを作っておられると述べられましたが、例えば輸入先とかを変えないといけない時に、一緒になって新しいマーケットを作って今までのしがらみをきちんと上手にほどくなどそのようなことが総合計画に書かれていると

すごく未来がある計画だと思いました。ビジネス形態というものが歩いて仕組み作りの部分が今のままだと既存の産業ベースでしか動いてないのであまりイノベティブではないなと思ったということです。

(会長) 今決める必要はないのですが、そのあたり一緒に考えていければと思います。

(事務局) いろんな団体がありますが、2030年には例えば農協の統合もあるかもしれません。何か違う人が出てきて集まり運用という新しい仕組みが出てくることも十分考えられると思います。しかし、確実に私たち行政の方ではどのような支援ができるのかというのはなかなか難しいところもあります。もし書き込むとすれば、そういったところの方向性を持っていることだと思います。また、地域内での消費や地産地消という中でどれだけ盛り込むのかにしても、天草の旅館でも天草の土産品をできるだけ扱いはされていますが今まではばらばらだったりします。利益があればいいかなということがあったと思いますが、天草でしか買えないものを作り販売する、そういったものが多く出ていければつながっていくとも思っています。

(副会長) 稼げるという言葉が何か、がっぼがっぼ稼ぐみたいなイメージを持ちがちなので、『適切に稼げる』や『ちょうどよく稼げる』などそういう自分になれるみたいな必要なお金が回るといった意味だと思いますが、稼ぐという言葉が少し気になります。

(会長) いろんな稼ぎ方があって、たしかにこうなってくれたらいいと思いますし、それぞれのなりわい、それぞれのやり方を変えていくということも重要だと思います。この部分はあるものを守ろうというようなこともあります。やり方を少し変え挑戦するなど新しい仕組みが出てくることもみていかないといけないと思っています。そのことが大きく稼ごうと思うと大企業の誘致になり、市民はこれぐらいのこととして自分たちのことをきちんと表現し挑戦もできるようなことが十分だと思います。そのようなことがたくさんあるとその後それぞれにつながり、稼げるまちという意味が見えてくると思います。たしかに、今並んでいるありがたい姿は今までのイメージを引っ張っている感じがして、地域の皆さんの産業のあり方やなりわいということを出ていくような未来感があればとも感じます。もっと踏み込んでみたらどうですかということです。続けたい人は徹底的に続けられるようにしていけばいいと思いますし、挑戦したいという人に関して大げさに稼ごうというとなかなかそういうものでもないかもしれないので、それぞれのスケールでできることをどんどん増やしていければすごく馴染んでくると思います。

(委員) つながりで働くということであれば、一次産業では流通販売などそういうところの分野とマッチングしてつながりをつくるということが一つあっていいと思いました。

(会長) 一次産業ではテクノロジーを活用などそういったことがないと逆に稼げることにつながらないのでもっと見せていかないといけないと思います。

(委員) 二つ目の誰もが安心して働ける場所という部分で、天草の学校を卒業しても天草で働かない多くの理由が市内に働く場所が自分にとってないということだと思います。もし自分らが働きたいと思う場所があれば喜んで天草に帰ってきて、自

分の親の面倒をみながら働きたいという若者も多くいると思います。一番の原因になっているのが、働く場所がないということです。リモートワークなどいろいろな働く多様性も増えていきますので、ある程度空間的な表現を織り交ぜながら表現することも一つだと思います。これが本当にうまくいけば、天草の人口に歯止めがかかると思います。この課題に対しては非常に大事に丁寧に取り組んでもらいたいです。

(会長) この観点、深く掘り下げていかないといけないテーマだと思います。安心して働くという意味は、雇用が安定するという見方もあれば、いろんな仕事にどんどんと変化していけるなどあると思います。その意味では、一つの仕事があるということになります。私の意見になりますが、例えば、副業、もう一個の仕事と複数なところで働きながらやっていくという形で、今はこちらが当たり前かもしれません。大都市だといろいろな複数の業務としてやりたいことがやりやすくなっていて、転職としてガラッと仕事が変わる人もいれば、複数の業務もやりながら切り替えていく人もいます。本当は地方の方がそういうことがいろいろとやりやすいから安心して自分のなりわいを作っていけるということが本当は魅力になると思っています。私たちの大学の学生も最後は違うかもしれませんが、地域に帰ろうと思っている人もたくさんいて、その時にきちんと自分の成長を支えていきながら、仕事を次々に変えていけるかどうか重要になっていて転職活動をする人もいます。仕事があるかないかということがまずは大切ですが、その後もどんどん成長できるかどうか挑戦できるかどうか重要な要素になっていると思います。このことを深めていくと、天草らしく働ける場の考え方が今ないものももう少し見えてくることになってきます。もちろん安定的にやる必要がありますしそれが商業としておさめていかなくてはいけないことですが、何に挑戦するということがこのタイミングで見えるようになっていかないといけないと思っています。先ほど未来感が欲しいと話しましたが、この未来のことはこういうことがあるということをもっと少し出していかないとお金もついてこなくなってしまう。こういう未来を見ましようということをしていろいろ議論いただきたいと思いません。

(委員) 地産地消や地産他消とよく聞くフレーズですが、一次産業、二次産業、三次産業が天草にどういうものがある、魅力がある商品があるから使いましょうという促しも分からず、天草内の方がまずは知らない、行政の方も、県の方も知らないという中で少しずつPR し稼ぐということになると、地産地消だと稼げないと思います。分母の数がどんどん減っていく中で量があるので地産他消の考えだと思います。しかし、地産他消の中でも今は、円安にすごく傾いていて、八代港では輸出するコンテナが遊んでいます。他の国、特に中国に引っ張られてコンテナの輸送コストも上がっています。その中で就航数も少ないのでコストがかかっている。輸入する方が高くなるのでどのように輸出に向けて県の支援、行政の支援について書いてありますが、自分でコンテナを手配しながらその費用面を半額補助や海外に持っていく際の費用の支援ではなく、今だったら天草の品物を輸出するに当たってどの業者さんがいて、市が統括して取り扱いながらPRする

ということがいいと思います。ただ、為替の関係でも内需を高めた方がいいのか外需を高めた方がいいのか戦略があると思いますし、また、一次産業の方ではやはり売るのが大変な中でその辺りを取り繕ったり、飲食業や旅館組合であったり、いろいろなところで、地産地消について市は応援しますというのがあると使えるといいと思います。どのような野菜や肉、魚があることを天草市内の人も知りません。天草は、水産資源や畜産関係がありますが、この魅力をマッチングしていく仕方もあるのかと思いました。すごく特別ですが、このつながり稼げるということをうまくやっていると、8年後も16年後も残っていけると思っています。ここに持っていきながら、次はここにと、どんどん継続していくことで持続可能になっていくと思います。

(会長) その考え方をもっともっと深めましょうっていうことです。つながりで稼ぐとどうということかということが少し読み取りにくくなっているかもしれません。つながりがあるからこそ稼ぐのを形ですべてできていくことに加え、皆さんが相互に何かももっともっと具体化することで維持できると思います。いきなり経済が好循環することはないと思いますので。特に地域内だけでは駄目ということも少し見えています。こういう形で協力しあうことがあると、きちんとこういうような消費が増えるから、こうやりたいということが必要となります。もう少し、つながり稼ぐということに関して、ありがたい姿に対して描いていくというところを検討してもらいたいと思います。

(副会長) 今の話を聞いて、すごくスッキリしました。大学での就職活動は、今までみたいに要は継続的に行っている企業にではなく、個人のきちんと資質を見てやることというのが大事だという風に言われています。あと、一つはそれを県がやるよりも市がやった方がいいようなビジネスマーケティング、要は繋げる仕事に。それぞれの特徴に応じて、個人では後継ぎがないから閉業しないといけないうきに組合などがあって資金力があるから違う業をするといった提供を行うという繋ぐ仕事の一つあります。主には米作りですが、米作りしながら色々なサイドビジネスをやりながらこれがダメなら外でやっていけるみたいなやり方というもの繋げる方の一つだと思っています。上手な終り方みたいなことも軽減につながるような気がしていて、閉じたいけれど、閉じられないから赤字が続くということが大いにあると思うので、思い切ってこう取り組みなどのその人の次の大事なビジネスをちゃんと作ってあげる代わりにその浮遊している財産を次の働くビジネスチャンス担当に回すといったそういうことは小さい方がやりやすいので、県がやるよりも市がやる方がいいのではないかと思います。天草は挑戦し続けられ選ばれる地域になると思っていて、稼げるということとつながると思ったところです。つなぐというやり方と閉じるというやり方は、どこかに入っているいいかなと思っています。

【やさしさと安心のまち】

○事務局説明

(会長) 暮らしというのは広い意味になりますけれども、よろしくお願いします。

(委員) インフラの整備の分野が掲げられていると思いますが、今後人口が減っていき、

なおかつ市の面積自体が広い状況の中で、その地方に点在しているインフラをどう維持していくのかというのがあると思います。最も難しい課題だと考えていて、この切るに切れない部分も少なからずあり、維持するというのは本当に難しいのではないのでしょうか、よくすることばかりではないと思ったので、維持していく上では断腸の思いでやらないといけないみたいなところはないのかなと思ってお尋ねしたいです。

(会長) 確かに今まで通りに見えてしまうところがあります。未来を描くと今まで通りで良いかもしれませんが、持続可能なということを少し考えないといけないのかもしれないかもしれません。今まで通りインフラを維持するのか、やり方を変えるか、このタイミングで何かを考えていかないといけないこととも思っています。意図的に考えられると思いますけれども、こういう考え方を持ち始めるということと言わないと、今後色々な場面において何かあえて変えることが必要となってくるということが、少し見えにくい気がします。事務局の考えを伺いたいと思います。

(事務局) 今後、人口が減少して、集落においても上水道、インフラ整備が、どんどん負担になってくるのは間違いないと思います。道路についても、現在は地域で道路清掃活動を行っていただいておりますが、本当にできなくなってきたという状況もあります。その中で、例えば、ある一定のところに行く時に、道路が2、3本ある場合には、一般道路を1本だけにして、あと1本は廃止ということもゆくゆくは考えていく必要あるのかなと思っています。本当に難しい問題でもなりますので、将来的にはこうなっていますというところについても課題としては掲げていく必要はあると思っております。

(会長) その辺りのことは次回に向けて報告いただく予定にさせていただければと思います。これまで通りでいいのかというテーマですけれども、正直このままでいまましようとなるとそのままになるかもしれません。今の似た話でも暮らしに加えてやさしさがありますが、やさしさの定義にもなってくるので、どういうことを考えたくてこのやさしさを入れ、それはありたい姿のどこに影響していることになってくると思います。先ほどのつながり稼げるまちもですが、なぜやさしさや安心という言葉となっているのか、あえてありたい姿として表したと思いますのでもう少しこのやさしさや安心という言葉をおのこのように捉えていただき、だからこのような書き方をしているという説明があればと思います。

(事務局) やさしさと安心のまちと掲げていただいておりますが、説明文の中に私たち一人ひとりがお互いにやさしさと思いやりの気持ちを持ち、地域内で助け合い支えあうということを掲げております。この共助の部分を高めていきたいと考えております。今後、行政の方も手が届かないところが正直出てくると思っています。その中では地域ぐるみといったところでの助け合いながらにもなると思います。防災の面においても自分だけを見るのではなく、隣近所、まわりのことも考えるというところでは、また、つながっていくということで、やさしさというところでは、お互いにということで、いわゆる共通のものをイメージして掲げているというところでは、

(会長) お互いにや一緒にいうことが重要であれば、あり方部分にも何かもう一段見える方がいいと思います。どうしても創造的になりがちで、全然メリハリがつかなく

なっていくので。せっかくやさしさと安心ということを理念に掲げたのであれば、それを意識したからこそあり方もこういう風にともっと特色もでてきていますということをごひやっていたきたいと思います。

(委員) 全方向に向けてきちんと政策を考えていることは基本だと思いますが、全部が全部デパートだとどういうまちかと一言では伝わらない時もあると思っていて、このやさしさと安心のまちというのであれば、最初に未来を担う子どもたちを育むというところからはじまっていて、子どもを育てる共助自助、みんなで育てるものを高齢者以外でもつなぐとしたら、全体としてしっかりと楽しく育てる市というメッセージをどこかで強く出してもいいのかなと思いました。私もこの天草に来てびっくりしたのが、子どもさんブームというか子どもがいる家庭が本当に多く当たり前のようになっていることです。こんなことあるのかと思うぐらいです。幸せなご家族を本当に普通によく拝見します。子どもを作れないということももしかするとあるかもしれませんし、ひとりでも大変だという中で私は育ってきたのですが、天草は幸せで子宝の島というくらいに強調してもいいと思っています。子どもを育てるいい環境にあるというのが、私は天草に来てまず実感しています。3人、4人いたら大変なのは分かっていますが、たくさん子どもを育てられている家庭もあり、メッセージとして何かこの骨太な一つがあると、子どもをきちんと育てる楽しさがあるということを出していただければと思います。このことは「ひと」や「経済」にも関係してきますし、全てにつながるメッセージになるのではないかと思います。そうなる教育が出てきて、経済的なところにつながってくるのですが、まずは暮らしのところから強調するとしたら子育てできる子宝の島が全国に伝わると思います。私だけの考えかもしれませんが、本当にびっくりしたので申し上げます。本当に正直うらやましいなと思ったので。

(会長) メリハリというか、きちんとぐっとくる思いが見えるようにしたほうがいいことが前提にあります。それは全体的な部分にもなります。未来を担う子どもたちを育むということは確かに魅力だし、もっと天草の魅力として言った方がいいのかもしれませんが、たしかにそういうことは説明の中に書いてありません。なりたい姿とその部分が上では生きていてきちんと魅力だと思ったら、説明として使える表現とし皆さんが共感できることをより意識的に作っていくことが重要だと思います。

(委員) 天草は色々な状況で多くの方が移り住まれていて、色々な生活はもちろんですが、自分の親を見ることや子育てに専念するなどそういった余地がまだ残されていると思います。「ひと」ではなく、「暮らし」のありたい姿の中に移住定住していることがこのこととして引き継ぐようなことがあってもいいのかと思いました。

(会長) 移住定住については確かにどこにも書くかも知りますし、それをどこで魅力的に見せていくか、確かにここに入れていくこともあるかもしれませんが、やさしさや安心をよく理解し、こういう島で暮らしたらこういうこととなりここに住みたいと思えてきます。このことでどんどん人が集まってくるということを加速させているわけです。そういう意味合いで移住定住がこの天草の魅力でもあるわけですから。この天草の良さを理解し、そこから選ぶということも重要な要素だと思います。移住定住のことをどこで表すかもですし、その方々が何を見て来られるのかということ

きちんと理解し、共感していただけることが大切だと思います。

(事務局) 移住定住については、前回は「ひと」の分野で表現しておりますが、これは受け入れる側の受け入れの心の気持ちを養成するということから今回はこちらに掲載しております。ご意見をいただきましたので、再度協議をさせていければと思います。事務局内でも「ひと」と「暮らし」どちらか非常に迷うところが確かにございました。

(委員) たしかに「ひと」のところ入っていますが、やはり「暮らし」のほうに示した方が合う気がします。

(事務局) 現在は、多様性を認め合うというところで男女、子ども、障がいなどそのような表層的な部分の多様性と思いの部分、深層的な部分での多様性を認め合うという部分としております。何を持ってこの移住定住政策を進めていくというのは、やはりやさしさと安心のまちを素晴らしく伝えていく天草市だから人が集まってくるという部分もありますので検討させてください。

(会長) 委員の皆さんの意見をお聞きしたいと思います。

(委員) 私は移住して10年経って、夫と子ども2人で移住してきましたが今では子どもが2人増えて、6人暮らしです。高校卒業した子は、色々な思いを持ちながら今、お聞きしていましたが、移住してくる、定住するときに最初に何を見るかというところ例えば子どもがいれば、どれだけ暮らしやすいかというのが一番で、どれだけ暮らしやすく自分たちが住むことに歓迎されているのか、子どもたちが安全に平等に学べるのか、あと距離を考えながら移住をします。このことを考えると暮らしの方に入っていた方が、じっくりくると思います。分かりやすさも含め、暮らしの方に入れていただきたいなと思います。

(会長) 移住して住む、暮らすということに意味があって、その部分を見てみなさんは選んできます。やさしさと安心があるまちだからこそ選ばれるということが重要なことです。このことをきちんと重要なこととして天草市は今までやってきたと思います。そうであれば、ここに置いた方がいいと思いますし、ありがたい姿があるといいとも思います。選んでここで暮らすようにきちんと選ばれることでどんどん人が集まってくることはいいわけで、観光的なイメージで活かせることもあれば、減ってきている地区の人たちも増えていき、地域の良さがあるからこそここを選んでいるわけですから。これが暮らしという側面での安心ややさしさがあるからここに来たいと思うようなことがありがたい姿としてないことは天草の魅力を隠してしまっている感もあります。堂々と言った方がいいと思います。ありがたい姿としてもっとやりましょうということをも改めて表に出してもいいのかなと思っています。

(委員) やさしさと安心のまちのところで、やさしいという言葉はとても難しいと思って聞いていたのですが、例えば社会的孤立の問題が深刻化しています。これからはまた大雨の時期になりますが、災害時の避難支援、障がい者の自立、子どもと子育て家庭への支援の充実などこういった支援が受けられるということはやさしさにつながると思います。今現在でも受け入れ体制や仕組みというのはある程度整っているのかもしれませんが、あとは、そこにプラスして支援されている団体もありますが、本当に困っている人への仕組みはあっても、そこにたどり着くまで

には結構時間がかかると思っています。自分で調べ、自発的に動けば仕組みがあるから受けられるといえますが、本当に困っている人は、自分が困っているのかわからない方がいらっしゃるとい実感が私にあります。つながり稼げるまののころでは、観光のところでより効果的な情報発信を行いますと記載があります。他の項目にはあまり発信という言葉がないなと感じました。以前、この審議会の中で、天草でのUJターンに関しての動画や観光はもちろんですけど、天草の色々な動画があり、色々なチャンネルがあるが統一されていないなということ意見を言わせていただきました。その動画に辿り着くかどうかっていう問題もあるのですが、色々な発信の仕方をしていただきたいと思います。そういったところからもしかしたら自分はこういうことに困っていて、こういうサポートを受けられるということを知ってもらえるような仕組みがあればと思っています。市政だよりには色々な情報が載っていますが、皆さんがそれを自発的にご覧になるかという難しいと思います。今では、SNSにも色々なSNSがあり、観光でも色々取り組まれているので、こういった子育ての支援などの取り組みについてもたくさん活用して情報を発信していただけるとやさしさというところにつながっていくと思いました。

(会長) やっている方としてはやっている感じだと思うのですが、情報があることでもっと使われますし安心にもつながります。このことは、ありがたい姿として皆さんが助け合うにしても、情報で孤立してしまうということがどうしても生まれてくるとなかなか上手くいきませんが、発信するだけではなく、相手のことも理解するというやりとりがあることも全体を支えるものになります。時代としても地域のことをしっかり集めて発信することやコミュニケーションを促すことを地域の中で進めていくことも大切です。このことからつながりやすさも出てくるわけですから、意識的に作っていかないと見えにくくなることが多くなると思います。情報の扱いとつながることを両方どのように考えるかです。こういった話が確かに少し見えない感じもあります。そういうことを言ういただければと思います。ありがたい姿がたくさんあってもいいと思います。情報としてそういった孤立感を感じないように何かをもっとあった方がいいと感じは確かにします。全体的に考えることがあればここでの話ではないかもしれませんが。何か事務局からありますか？

(事務局) 今ご意見をいただいたとおり、私たちがやっていることは確かに伝わっていないことがあります。それをどのように伝えたいのか、また、伝えた方がいいのか、どのように動くのかということで色々考えていますが、なかなかいい結果が見出せていない現状です。また、本当に困っている人に伝わっているのかというところでは、本当に困っている人が民生委員へ相談されないということもありますので、どうやって探すのかというところが今後必要であり、ありとあらゆるところに情報を発信しても、逆に必要とされていない方からは、いらぬ、面倒だという話も出たりします。情報発信が一番難しいところと考えております。子育て関係のメールは登録すれば届くというようなことができればとも思っています。逆にどういった方法が一番いいのか教えていただければと思います。

(委員) やさしさと安心のまちは、どちらかというとも市民が求めているのはやさしさが絶対にあってもらわなくてはいけないものですが、もう少し具体的に考えると、どの項目でもこういうことを行います、支援を行いますとなっていますが、地域によって格差がないということ伝えていただきたいと思います。地域差があることはしょうがないとは思いますが、そこをいかに埋めていくのかが課題の一つだと思っていて、やさしさと言葉だけで表すよりもう少し具体的な言葉で地域格差のことについても触れていただきたいと思います。格差については、皆さんが何かしら感じているところではあるはずですが、例えばスポーツに関しては施設が気軽に行ける距離にはないということを感じていますが、地域によって違いがすごくあると思いますので、そのような部分を考えていただけたら大変ありがたいです。

(会長) もちろん全部が全部ということではなく、その地域で何を考えるのかということがあるはずですが、そこはどうしても目を向けないと抜けていきやすいところだと思います。例えば、スポーツに関してはライフスタイルに応じてとありますが、地域ごとに子どもの部分で何かあればそのことがライフスタイルということになると思います。単にフレーズで終わらないようにもう少し具体的に考えることが大切だと思います。他にも、地域が平等ということと全てが同じと聞こえますが、地域がどのように考えていくかが平等だと思います。

【自然とともに創るまち】

○事務局説明

(会長) 基本的な話になりますが、今回は、自然環境のことに限定されているようですが、もう少し色々な意味で身の回りの環境も含めた広い意味で捉えてもいいのかもしれないと思います。見方によってはもう少し切り口が出てくるのかもしれないと思います。他の要素は、暮らしと経済、環境は自然と話をされるといいのですが。

(委員) 環境のところに関しては政策が少ないと思っています。私は、環境美化推進委員に入っていますが、環境を守るというところがすごく先端でないといけないと思っています。日本の中でも、例えば、農業されている方はすごく多く先端をいってほしいのですが、その方達が環境に対して学ぶという機会がおそらくすごく少ないと感じています。「ひと」と「環境」がつながっているのであれば、「環境」のところでももう少し学びが入ってこないと実際に何をどうしたらいいのかが分からないと思います。ゴミを拾う、ゴミ袋をなくということはもう皆さん当たり前に行われていると思いますが、循環のことを大切にしていけないと生き延びていけないなど私たち自身の命にも関わってくることなので、もう少し丁寧などういうことが大事なのかを学べる場所があればと思います。

(会長) 今の意見ではありがたい姿として何か足りないと言われたと思います。学ぶということも入っていますが、それは別に他のところにあると考えるのではなく、自然という環境の中でも考えるテーマだとも思います。理念の下にきちんと天草の豊かな自然環境を教育や産業などさまざまに取り入れると表現されており、産業にはどのように使っていくのかだと思います。色々な意味で経済や産業の部分でもこのことは盛り上がってきています。漁業の中でも求められる時代です。山の方

でもどう考えるか。産業としてもかなり重要なテーマでもあります。かつ教育でも、このことをどう考えて、単に自然が重要ではなく、天草ではこのような学びができ、自然と共に生きているというところを出していかなければと思います。それがありがたい姿としてオーソドックスすぎると正直感じていて、今は挑戦していく時代でもあるので、天草だからこそリードできるのは何かということをあえて言うてみるぐらいだと、ここに理念として出す意味があると思っています。SDGs など色んなところで環境は入ってくるからここに入れているという感覚であるなら、この理念に出すべきことでもないと思います。ここに出すのであれば、あえてこういうことまで考えていると言わないと物足りない気がします。自然をともにつくるとまで言っているのであれば、もっと踏み込んでいいと思います。今の話の中に結構ヒントはあると思います。産業のあり方でもまだまだ挑戦できることが沢山あるということはおそらくご存知だと思います。そのようなところを踏まえるとこういうことを天草はやったほうが良いと出していただくと、稼げるまちにもつながるかもしれません。自然の方からもきちんと産業を考えるというのが出てくると思います。

(委員) この天草市は、雲仙天草国立公園の中にある市ということですが、もう少しそのあたりのところを前面に出しながら、先ほど会長が述べられたような大きな視点もあるだろうし、それともう一つ、天草は本当に豊かです。環境の中にも、文化財関係があるということです。本当に大事な遺物遺跡、国指定の遺跡もあります。そういったことを自然環境としてのもう少しありがたい姿にそういった切り口を広げていくことができるのではないかと思います。バランスを作りながら考えてもらえるといいと思います。もう少し、天草の豊かな環境に包まれているところを考えてほしいと思います。九州大学の臨海実験所も苓北町ありますし、そういったことで、もっとありがたい姿を広げてもらえればと思います。

(会長) この範囲は余計に仕分けをしすぎない方が良くもありません。環境の方から光を当てると産業や人と違う切り口から見ても同じことに飛ぶと思います。綺麗に分けようとするけど、環境はこのように、ごく一部しか出てこなくなる。だからこそ綺麗にわけなくてもいいのかもしれません。自然環境で考えれば、環境も変わるし、教育ももっとやること出てくるし、環境の視点から見るというところを言った方がいいと思います。

(事務局) 今のご意見の中で産業の話がありましたが、農業ではまず有機農法があります。いわゆる化学肥料を使わないことで二酸化炭素の抑制につながるということです。林業、森林になります。木は50年を過ぎると二酸化炭素を吸収しなくなると言われています。そのためにも計画的に伐採して植林を行うということがあります。海の環境、魚の住む環境では、磯焼けの問題の解決方法の一つとしてアマモがあります。魚の棲家としてもですが、アマモには二酸化炭素を吸収する効果もあることから天草高校の学生たちも取り組んでいます。環境の分野と経済の双方に挙げようかということで一旦は資料を作成したのですが、今回は外しています。産業は産業のほうでも色んな自然と関係することに取り組んでおり、どのような表現ができるのか考えているところです。教育の面につきましても今年度はイルカの生態系を調査する事業があり、イルカが棲み続

けられる環境を通して学びとつながることができないかそのようなところも検討しているところです。自然につきましては、脱炭素社会という大きなくりの中で見えにくくなっているというところもあるのかなと思います。どのように伝えことができるか再度検討させていただければと思います。

【行政経営】

○事務局から説明

(会長) 皆さんへ意見をいただきたいところになります。この審議会は、ご理解いただいていると思いますが、総合計画に関することと、行政経営という市役所のあり方や地域に対してきちんと成果を上げられるような行政の仕組みが作られ、そういった意味では行政改革という言い方になるかもしれませんがこの視点もこの審議会のテーマとなっています。総合計画としてどういうことを書くかということを中心に一つ考えて、行政のあり方に対しても色々常に気にかけていただきながら、こういう観点を意識したほうが良いということを適宜ご指摘いただければと思います。総合計画は何か考える観点を挙げておくことですし、良い行政、良い市役所があれば良い地域になりやすいということをみなさんはお気づきだと思いますので、そういった意味で行政経営のあり方というのをここでは考えていきたいと思っています。そのためにもこのような表現でいいのか、もう少し違った観点がでてきたほうが伝わるなどのご意見をお願いしたいと思います。

(委員) 疑問があつて、政策のところを見ると、今あるものを効率的や効果的に運営をする、今ある組織とか職員力を強化といったところの取り組みが大きな柱になっていると思いますが、財源をより増やすための政策があまり見えないと感じたところです。このありたい姿を見ていると、なんとか切り詰めてやっていくという動きはありますが、財源を増やすためのことが見えず、減っていくのが前提でありたい姿が決まっているのかと感じたところです。

(事務局) 本市は、地方交付税として多くのお金を国から交付を受けています。今までは、合併特例として10年間は10の市町で計算した地方交付税を交付していただいております。それが現在は一つの自治体としての算定となり、段階的に減ってきています。このような中で、今までの行政改革という中で職員数の削減や予算の削減などによって経費削減を行ってきました。また、昨年実施しました国勢調査の結果として人口が減っていますが、地方交付税は、国勢調査の人口が大きく関係しますので、そういった分でも減っていきます。そのためにも自主財源、いわゆる私たちが独自に稼げるお金があればいいんですがそれでは到底賄えてないので地方交付税に頼らざるをえない状況になります。基本的には維持していくことが基本的な考え方です。ただ、今はふるさと納税もあります。これは自主的に稼いだお金となりますので、活用し行政も稼げる仕組みを作っていく必要があると考えているところです。基本は維持していくことになります。

(委員) 地方交付税を何とか取りに行くような制度はありますか。

(事務局) 地方交付税は、国が計算して天草市はこれだけと交付されるものになります。あと、市が取り組む事業において国の省庁などの交付金という補助金もありま

す。対象となる場合は必ず採択を受けるように取り組んでおります。本市も借金を行いますが、借金をする際にも、有利なものがないかなど、そういった選択を財政課が計算し対応しております。

(会長) 財政的な部分をありたい姿に位置づけた方がいいという指摘になります。説明いただいた通りでもありますが、お金がなくなるからどうかしなくてはいけないということでもありますが、自治体も稼ぐってことを考えなくてはいけないと思います。色んな収益源が入り得えます。あと、裏付け財源という言い方をしますが、財源がないことは取り組まないということです。企業では普通ですが、実は行政もそのような時代になっています。交付税もそのような考え方によっては不足している分を国に出してもらっているという意味もありますが、こういうところできちんと出てくるから、ここの部分はもらうようにするや、特別交付税という言い方をしてこういうことに取り組むから、交付税を上乗せします、そのような財源がついているものに取り組んでいくということになります。今、効率的、効果的という言い方をするとところの中に入っているのかもしれませんが、安定した中にあるとしても、財政の部分を分けきちんと確保すると表してもいいということだと思います。現にできているかどうかは後で考えるとしても。目指すこととして、ありたい姿に、こういうことを掲げてみせていくことがあったほうがいいのではないかなと思っています。そこに行政の本気度が見えていることが逆に魅力になると思います。できた、できないと色々なところで言われやすいとは思いますが、まずは言ってみてどうなのか、その結果をいつも確認し続けることに本当に意味があるので。言われているみたいなことを言うのではなく、行政を信頼してきちんとやってみてみましょうと呼びかけることに力点を置くことができるとも思います。厳しく言われるような場面がある気がするから言いにくいとも思いますが理解もされます。まずは掲げたものに関して、きちんとできているかどうかを確認し続けるために作っていると。あえて前面的に出して、行政もそこには挑戦することを出していただいたらいいなと改めて思いました。こちら私見が入っているのですが、職員の力が何より重要になってくるわけです。今まで挙げてきた4つの理念も結局は情報発信も行いながら、みなさんの声も聞き、行政職員がいればできることはたくさんあるわけです。職員のあり方も含め、職員が挑戦したいと思っていることをサポートし、総論になりますが職員はそれができていて、こういった4つの理念を一緒になって取り組める職員がきちんと育成できるかどうか。そういう職員が活躍できるようになっているかどうかをありたい姿として整えていただくといいのかもしれませんが。今回、新たに理念の一つとして入れようとしていただいたことも、文章での説明は書いてありますが、行政職員一人一人が何をすることで地域の未来が変わるということをしきりと伝えるべきということで取り入れていただいたと思います。だから、ありたい姿として大いに言っていただいた方がいいと思います。

(委員) 先ほど説明があったように財源はどんどん減っていくという中で、これだけ「ひと」、「経済」、「暮らし」、「環境」のところへ取り組み、市民からはなんでも求められると思いますが、どんどん財源が減っていくということは本当に大変ではないのですか。市民は、財源が減っているということを知らないと、なんでやって

くれない、なんで減らされるというばかりだと思います。財源が減っているような状況を知ったことを踏まえて、ともにつながり幸せ実感宝の島天草を実現していくための要望ばかりで言われてしまうのではないかと感じました。

(会長) そういう意味でも、きちんと堂々と見えるようにしたらと思います。今は財政確保をしなくてはいけない時代であって、色んなやり方をして集めていく必要があります。ふるさと納税だけではなく、最近は Youtube を出して、広告収入を集める自治体もあります。企業と同じように色々な収入源を作り始めてきています。そういうことに挑戦することを市民の皆さんにも共感してもらわないとなかなか本質を伝えるにいくとも思います。色々な意味で今は国がお金を市民一人一人に渡すということをはじめたが故に、市民のみなさんは、行政はお金持ちと思っています。しかし、市の職員を削る状況になっても、ない財源をどのように使うということに加え、お金はどのように集めていくのかをきちんと伝える必要があります。集めてくることに関しては、投資もしなくてはいけないということも。この部分をきちんとやっていくという感覚も作っていく必要があると思っています。この計画できちんとありがたい姿を掲げた方が逆にいいと思っています。

(委員) 廃校施設もまだ余っているといえれば余っていると思います。空き家バンクは活性化していると思います。しかし、もう一步踏み込んでいただく、例えば、移住を考えている方に、仕事や教育とセットとして、稼ぐ財政運営のやり方として今余っている空き家などをもう少し前向きに行政側と何かやれる方法はないものないのでしょうか。空き家が確かにいっぱいあり、色々な状況があるかもしれませんが。もったいないと思う土地もあつたりするので。

(事務局) 行政側で空き家をどうにかできないかということでしょうか。

(委員) 空き家を活性化するというのは行政側が手を上げてイニシャルコストをかけて活性化するのか、それともトータルのこれだけ余っているのでも使えるように提供するような場を作るなどができないのでしょうか。確かに空き家バンクはありますが、もう少しスピードが欲しいと思っています。また、企業誘致も含め、例えば廃校の活性化や島外の人により積極的にアピールするなどの取り組みは現実的かどうかお伺いしたいです。

(事務局) まず市が持っている財産、学校の廃校跡地がありますが、校舎についてはそのまま残っています。当初は、その校舎を借りる団体を募集して賃借料をいただくとしておりましたが、規模が大きすぎるということもあり、現在は3年間無償で賃借する手続きをとっています。それ以降も、継続する申請があれば減免措置を行っております。遊休財産ということで学校施設はまずは全て無償で賃借いただき活性化してくださいと周知を行っているところです。現在、1、2施設はそのような形で、校舎を使っていられるところがあります。もう一つは、今年度からの取り組みとして協議を進めていますが、市の空いている土地などをホームページでの建物も含め掲載し活用していただけるような仕組みがとれないか検討しているところです。個人の空き家については、行政がどこまで手を入れられるかという限界があり、今は空き家バンクでの仲介までで留めています。空き家を市が改修してしまうと最終的にはその財産の価値が上がってしまいます。個人の資産となりますのであくまでも今は入居していただい

た方に補助金を交付し、改修していただく仕組みとしています。行政としてはこの形が限界と考えています。昨年度から空き家調査を実施していますので、数が増えてきています。今度いかに周知し、有効活用していくかが私たちの仕事と思っております。

(委員) 一方で船の活用などはないのでしょうか。今は使っていない船の。

(事務局) 漁業者も高齢化となり廃船もありますので、漁業組合員の船は漁協が紹介を行っているということがあります。

(委員) 理念のところは●●と記載されており、説明でもありましたが、まだ決まられていない、多分悩まれているところと思ったので私が思いつきました。今から財源もどんどん減っていき、人口も減っていき、行政自体もコンパクトになっていかなければいけないと思います。しかし、ここで掲げてあるように、効率的や今ある職員を強化してというところで命名したのが「小さくて強いまち」です。少数精鋭のイメージで、理想というか理念として掲げられたらと思いました。強いところでは、チームワークや効率化を表すような言葉としてどうかと思いました。

(会長) 予定していた議題は以上になりますが、何かございますか。事務局からなにかありますか。

(事務局) 次回は、基本計画の政策及び施策計画の資料の方になります。こちらの内容についてご議論いただきたいと思っています。その中で本日ご議論いただいた、ありがたい姿についてもご意見をいただければと思っています。本日いただいたご意見等を踏まえ、協議した結果をお出ししたいと思っております。今後も意見を交換しながら進めていきたいと考えております。

(会長) ありがたい姿では、ありがたいという言葉が入っている通り、夢を語る文でもあります。未来を感じる、これを見ると天草市って楽しみだと思えるような表現を遠慮なく出していただけたらと思います。どうしても、オーソドックス、また抽象的ではなく、ぜひ未来を感じられるようなことを言えばいいので。まずは表現していただいて、どうしたら出来るかということ、4年間くらいでどのようなことをやってみよう、やってみてそこで更に見直ししていくことが天草市の総合計画だと思っています。是非、夢を描いていただいて、わくわくする未来像を全般的に表現していただければと思っています。

以上